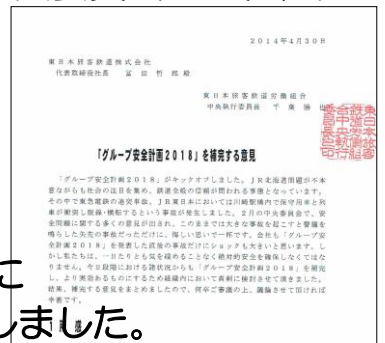


「グループ安全計画2018」 を補完する意見を提出!

「グループ安全計画 2018」が発表され、5年間の安全の取り組みと安全投資計画が示されました。一方で、2月に開催された第40回定期中央委員会では、相次いで発生する事故を目の当たりし、「このままでは大きな事故を起こす」と警鐘を鳴らした矢先に、川崎駅構内で脱線・横転事故が発生してしまいました。

私たちは、人間労働である以上、「常にある状態は危険であり、『事故を完封する』ことは不可能である」ことを指摘し、「グループ安全計画 2018」がより実行あるものにするために検討委員会の議論を踏まえ、本日会社に対して意見書を提出しました。



意見書内容の抜粋

「JR東日本グループの安全に対する基本的な考え方」について

- ・グループを抜きにした安全の確保はできないが、社員一人ひとりの取り組みに重きが置かれていて、グループ会社は何をしたらいいのか、親会社としてのマネジメントが抽象的である。
- ・ヒューマンエラーはなくなることから、事故の一手手前の繰り返し発生している事象・事故を「完封」することは疑問が残る。原因究明を徹底的におこない対策を立ててはならない。
- ・「原因究明」という文言がないのはどういう理由なのか。
- ・「エラーの罨」を見つけるためには、「原因究明」が必要で重要である。

「安全文化を根付かせる」について

- ・正しい報告をした場合は、非難・処罰すべきではない。
- ・「安全」と「安定」は次元が違うものである。「安全」が担保されて「安定」がある。
- ・「三現主義」を根付かせるためには、現場を重視し、風通しのよい職場が前提である。
- ・CS運動等、職場全体で議論して共有することが大事であり、全体化の努力をするべきだ。
- ・安全指導のキーマンは、安全意識とともに職場を良く知っている者、現場の実作業ができる者になってしかるべきである。

職場討議資料を作成しますので、職場からも議論を巻き起こしていこう!

絶対的安全を追求していくための 職場風土を強化していこう!!